

馬術普及
特別キャンペーン
NEW

新規一般年間購読促進月間
詳しくは巻末ページをご覧ください

昭和52年2月14日 第三種郵便物認可 平成12年11月20日発行 (毎月1回20日発行) 通巻467号

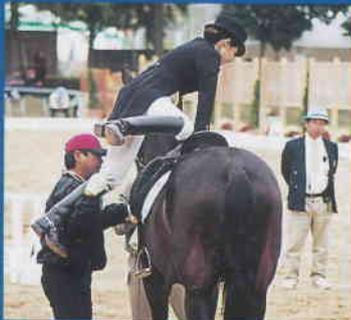
12

馬術情報

Japan Equestrian Federation Journal No467/ December2000



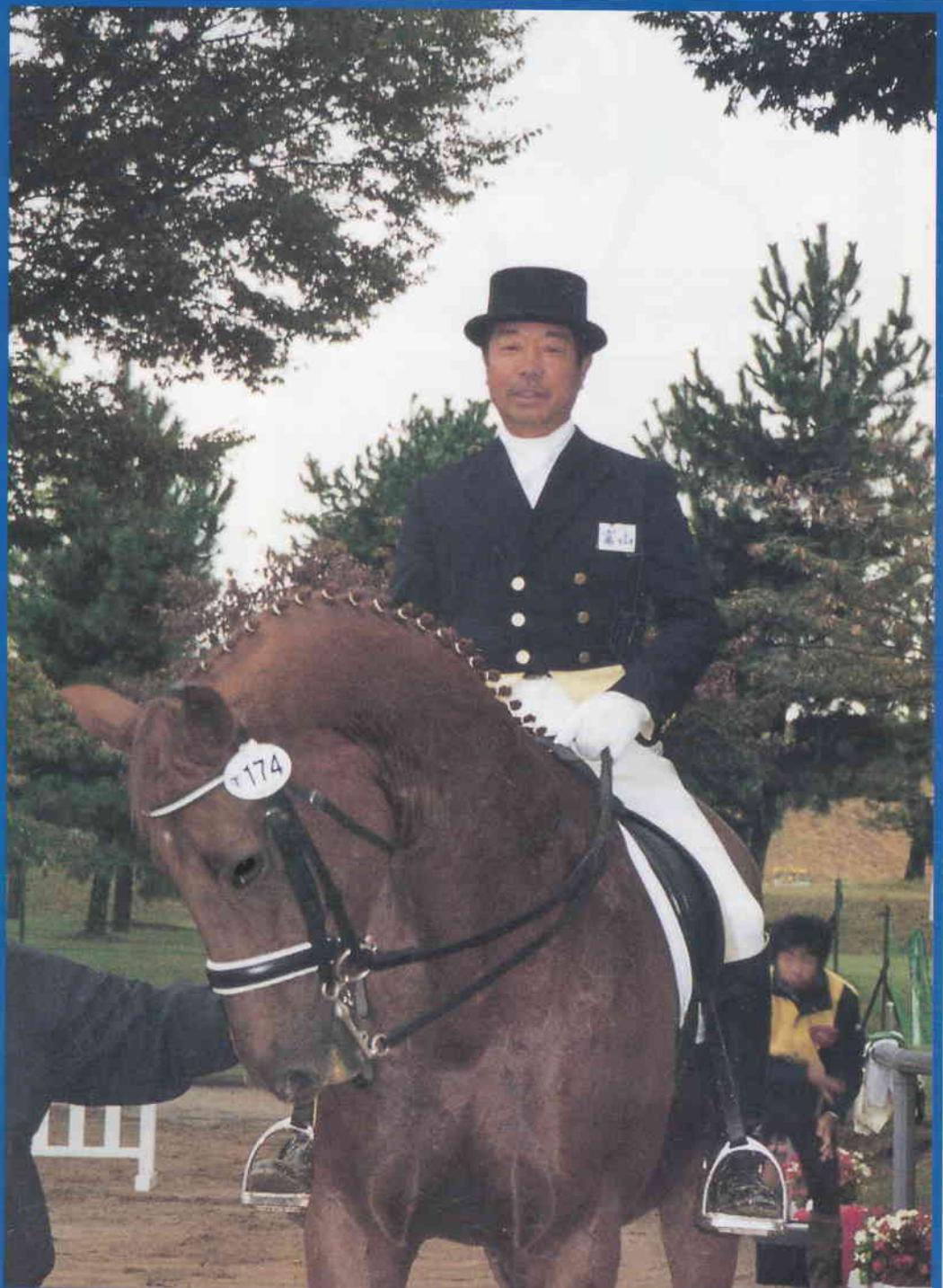
▲地元富山県が総合優勝。閉会式で優勝トロフィーを掲げる牧野裕子監督 (第55回国民体育大会)



▲苦労が実って夫婦で金・銀メダル。妻の下馬を手伝う牧野孝喜選手 (第55回国民体育大会)



▲成年男子標準障害優勝の大谷直生選手(奈良)と北海道産のバラチナJr号 (第55回国民体育大会)



地元富山の牧野孝喜選手が夢号で金メダル、裕子選手がアレクサンドラ号で銀メダル

牧野夫妻の正「夢」——金と銀

2000年とやま国体 (第55回国民体育大会)



社団法人
日本馬術連盟



男女総合成績で富山県優勝

(男女総合
得点101点)

女子は静岡県が健闘してトップ

静岡の女子総合得点37点、総合成績2位は奈良(総合得点89点)

20世紀最後の国体。富山国体の馬術競技場の会場になったのは、立山連峰を望む常願寺川の河川敷に広がる馬術競技場。長細い会場で、厩舎と競技場が離れているという不便はあったが、河原の土手でのクロス見物はのどかで風情があった。国体のフィナーレを飾る最終競技、五段飛越のバーが久々に180cmを超え、183cmにチャレンジ、盛り上がった。優勝は苅谷幸生(岡山)。オリンピック直後という不利な時期の開催にしては成功だった。地元富山が総合成績で優勝し、メンツを保った。(レポート/大久保登喜子)



▲女子総合優勝の静岡県・川口雅美選手 ▲男女総合優勝の富山県・牧野裕子監督



▲常陸宮ご夫妻が最終競技の五段飛越を熱心に観戦された。

《男女総合成績》

奈良に追い上げられ、はらはらと見守る中、地元富山県が101点を獲得して優勝した。昨年の熊本が112、25で圧勝したのに比べれば、少しもの足りないが、富山県監督でもある牧野裕子選手が銀メダル、夫の孝喜選手が金、銀メダルと頑張って点数を得た。地元の観客のアツイ声援を受けて成年男子ダービー準優勝の吉田博泰、少年では庄司幸寛がS&Hで優勝、稲垣佳代子が標準障害で2位、澤田麻衣子がアジア大会記念馬場で2位などジュニア層の活躍が目立った。

2位は昨年に引き続き奈良県。チルドレンNo.1選手権も制覇した国産の名馬、パラチナJに騎乗した大谷直生が標準障害優勝、S&Hで準優勝、国体常勝の山口千恵子がカスターニャに騎乗して2段階で優勝、インディアンサマーIIで標準障害で2位など相変わらず強い。

《女子総合成績》

女子の総合成績トップは静岡県で37点を獲得。川口雅美がトップスコアで優勝、桜井亜須歌が馬場で2、3位に付けるなど手堅くポイントを獲得した。女子総合成績2位は奈良県。

(記事中、障害競技の技術的コメントは白井民平氏による)



▲各県馬連の旗がひしめく、国体ならではの風景

第1競技 成年女子 第5課目馬場馬術競技 (J:山脇)

1	三好由里子	ディミトリー	東京	65.87%
2	牧野 裕子	アレクサンドラ	富山	60.19%
3	桜井亜須歌	マノリート	静岡	60.06%
4	山下 佳代	フルグロ	大阪	58.39%
5	中村 公子	ブリリアントB	秋田	57.29%
6	高木 由美	バルバドス	奈良	56.58%
7	千葉いずみ	ファイネスト	宮城	55.94%
8	岡部 亜貴	レギリオ	熊本	55.55%

初日の9時半から始まる第1競技には13人馬がエントリー。地元の期待とプレッシャーの中で富山県の監督を兼ねる牧野裕子選手がアレクサンドラ号に騎乗して銀メダルを獲得、富山県にもたらした初のメダルとなった。優勝は昨年同様三好由里子が付き合いの長いディミトリー一号でリズムカルな演技を見せ優勝。

「踏歩変換で少し後軀が先行したところがあり、伸長速

歩でイレギュラーがあった」(山脇洋審判員)とはいえ、65.87%をマーク。2位の牧野選手60.19%、3位の桜井亜須歌選手が60.06%と上位のレベルは高かった。

「上位3人はインターナショナル級の安定した出来」との評もあるが、馬場馬術後進国の汚名を返上できるよう頑張ってもらいたい。山下選手、中村選手もよい演技を見せた。



▲三好由里子選手と自分で調教したディミトリー号。東京都のポイントを獲得するのに、大いに貢献した。

第2競技 少年 二段階障害飛越競技 (J:新子)

(第2段階走行)

1	本田 恵士	カスターニャ	奈良	0 26"79
2	小林 徳子	鈴蘭	山梨	0 28"00
3	荒木 久佳	ティニー	長野	0 29"58
4	椎野 慎也	ギスボンII	神奈川	0 31"87
5	川崎 公輔	ゲルドフ	三重	0 32"07
6	遠藤 篤	セザンヌ	宮城	0 37"50
7	庄司 幸寛	サリーナ	富山	-4 27"56
8	森田 壮司	セフリ	福岡	-4 30"73

26人馬がエントリーし、第2段階に進んだのは12人馬。実力の差の出るコースだったが、優勝は本年度のジュニア・チャンピオン、本田恵士選手とカスターニャ号。小林徳子選手と鈴蘭号はショートカットをしてバランスを崩し、その間のタイムロスがたまった。3位の荒木久佳選手もうまく乗ったが、着地が不安定でやはりタイムロスとなった。本田選手はよく馬をコントロールし、実力

を発揮して順当に優勝した。

昨年、熊本国体で同競技で地元の初Vとなったを榎田裕樹選手とマルコスルー号とのコンビは2段階目には進んだが、3拒止失権の期待外れの結果となった。地元富山の庄司幸寛選手とサリーナ号は思い切ってショートカットし、タイムは抜群に速かったが、2走行目に1落下してしまった。



▲ジュニア・チャンピオン、本田恵士とカスターニャ号。コントロールがよく、見事優勝。

第3競技 成年男子 トップスコア競技 (J:池本)

1	原 伸二	オリンピック	岡山	1100 67"48
2	岡村 実	パラチナJ	奈良	990 68"66
3	梶間 啓一	コンセプト	群馬	850 66"72
4	廣島 孝範	ナイアガラシチー	山口	850 67"83
5	高橋 雅也	ギスボンII	神奈川	840 71"48
6	堀川 義一	ケリーズロウ	広島	750 68"22
7	舟越 壮治	イーワン	茨城	670 61"96
8	大瀧 啓之	アルフィー	福島	650 65"43

トップスコア競技は国体らしいアトラクション的な楽しさを持っている。難易度に応じて点が付けられた障害を60秒以内で飛越し、合計点を出す。ジョーカーは200点の高得点となるが、失敗すると200点減点となるのでサンプルである。はらはらしながら観戦できる。ジョーカーに成功するかどうかが勝敗の分け目。結局、岡山の原

伸二選手とオリンピック号のコンビ。勇気あるチャレンジで大きく引き離して高得点を獲得。

伸二選手とオリンピック号がジョーカー2回飛越に成功して優勝した。西日本に優勝したばかり、順当なところだろう。ジョーカーで成功した唯一の人馬である。危ない橋を渡ったのは地元竹田浩志選手とエレガント号。1度は成功で、もう1度は失敗したからプラスマイナス0。2位パラチナJと岡村実選手。

(競技写真撮影/(株)アスリート Tel48-285-3411)



第4競技 成年男子 ダービー競技 (J:白石)

1	中井 正人	フラッシュII	愛知	0	114"35
2	吉田 博泰	バウンティ	富山	-5.5	122"11
3	岡村 実	インディアンサマーII	奈良	-5.75	127"72
4	河原田 享	レッドマン	京都	-6.75	127"86
5	山口 昌彦	アイデンティコ	宮城	-9	120"15
6	鈴木 孔明	ラ・ネージュ	岩手	-10.25	129"22
7	北垣 和宏	チョモランマ	鳥取	-12	136"56
8	田口 和久	バックチャット	秋田	-13.5	122"11

河川敷のダービーコースで障害はあまり高くなかったが、アップダウンがあるので難しいコースになり、ほとんど減点0が出なかった。優勝候補筆頭の山梨県の鳳凰号と前島仁選手のコンビは第1障害のあと、いきなり人馬転倒し、失権。予定した金峰は20歳。国体の連勝記録にも陰りが出てきたのだろうか。25人馬がエントリーして失権は12人馬。約半数が生き残った。そんな中で唯一のノーミス走行が愛知の中井正人選手とフラッシュII



▶アップダウンのある難しいコースを唯一減点0で走行した愛知の中井正人選手とフラッシュII号。

号。昨年の覇者、奈良県の岡村実選手とインディアン・サマーIIは1拒止で優勝から外れ、インディアンサマーのダービー3連覇は果たせなかった。さらにタイム減点が加わって3位。2位は富山県の吉田博泰選手とバウンティ号。地元の応援団の熱気に応えた。

第5競技 少年 団体障害飛越競技 (J:金田)

1	岐阜	戸本 一真、中村 麻希
2	宮城	山田 康弘、土坂 拓郎
3	千葉	鳥井 丈司、岡部 彰宏
4	宮崎	和田 将人、小田 直明
5	滋賀	安井 博一、田所 宏之
6	富山	小森 星、稲垣佳代子
7	北海道	橋本 英之、三浦 大輔
8	愛媛	佐藤 昇、佐藤 明

この競技は2名対抗で1頭は自馬、もう1頭は貸与馬という方式で、相互に乗り換えて行うトーナメント。10月15日に1回戦と順々決勝、18日に準決勝と決勝というように、2日間に分けて行われた。12道府県が出場し、準決勝に勝ち残ったのは、宮城、宮崎、岐阜、千葉の4



▶戸本一真選手とナチュラルゴ号。



▲中村麻希選手とアイデンティコ県となった。昨年の1位神奈川、2位静岡、3位奈良からは出場がなかった。千葉県の鳥井丈司選手、岡部彰宏選手と岐阜の中村麻希選手、戸本一真選手の決戦となり、岡部選手の第8障害での落馬があたり、岐阜が優勝。

第6競技 成年男子 セントジョージ賞典 馬場馬術競技 (J:安岡)

1	木曾 敏彦	ディミトリー	東京	62.37%
2	牧野 孝喜	夢	富山	60.84%
3	人見 尚樹	マノリート	静岡	60.84%
4	瀬理町芳隆	バルバドス	奈良	58.93%
5	川俣 幹宏	レギリオ	熊本	58.84%
6	山下 敦夫	エリオットII	大阪	56.88%
7	吉田 三郎	ターボ	徳島	56.56%
8	藤原 健	ダンシングドリーム	秋田	55.49%

昨年の成年男子セントジョージ賞典は音楽付き自由演技だったが、今年は成年女子が自由演技となり、男子はFEIセントジョージ賞典馬場馬術課目1995で実施。

優勝は昨年同様、木曾敏彦選手とディミトリー号。2位に富山県の牧野孝喜選手と国産馬の夢号が入った。地元国体に向けての調整が成功した。国産馬での馬場馬



▶木曾敏彦選手と漆黒のディミトリー号。この馬は三好由里子選手と2人で乗って、東京都のポイントに貢献。

術は難しいと言われているが、よき前例になるだろう。木曾選手は国際経験が豊かで落ち着いた演技を見せた。

第7競技 成年女子 トップスコア競技 (J:池本)

1	川口 雅美	サンクチュアリII	静岡	1140	62"07
2	成瀬 裕子	シュガーシェイク	広島	970	67"46
3	中本 雅子	スターダムバイオ	福岡	970	68"00
4	伊藤 あき	山紅葉	山梨	950	69"76
5	前野 知恵	スパークーI	大阪	940	66"40
6	松岡 智子	オベリジャン	徳島	930	67"20
7	栗崎二弥代	ユーホーキング	山口	920	66"04
8	本田 宏美	アルフィー	福島	870	71"46

60秒間にいくつの障害を飛べるかを競う。障害の難易度に従って点数が付けられているので、難しい障害を飛ばせばそれだけポイントが上がる。得点のキーポイントにな

▶いつもながらのチャレンジ精神を見せてくれた川口雅美選手と葦毛のサンクチュアリII号。ジョーカーを2回飛越して優勝。



るのがジョーカーで得点200点だが、失敗すれば、マイナス200点。女子は地方によってレベルの差が激しいが、果敢に制限いっぱい2回ジョーカーにチャレンジした川口雅美選手とサンクチュアリII号が1140点の高得点で優勝。2位は広島の成瀬裕子選手とシュガーシェイク号。

第8競技 少年 第3課目馬場馬術競技 (J:山脇)

1	荒木 薫	レギリオ	熊本	62.90%
2	澤田麻衣子	セルバンテス	富山	60.14%
3	井上 遥	イ・テムデイトゥ	東京	58.26%
4	吉田美有紀	ターボ	徳島	58.12%
5	佐々木聡平	マノリート	静岡	58.12%
6	上野 洋平	コンバインランサム	長野	55.65%
7	森田 浩子	エリオットII	大阪	54.64%
8	龍田 太朗	クラシック・トラディション	長崎	51.30%

「少年のレベルは上がっています。この競技は基本的なものです。馬が優秀なのに、選手の実力がついていか



▲荒木薫選手とレギリオ号。

ないケースも見られます。上位の人馬にはよい指導者がいることが分かります」(山脇洋審判員)。優勝は昨年熊本国体で活躍したレギリオ号と荒木薫選手。2位の澤田麻衣子選手は牧野孝喜夫妻の弟子で高校3年。セルバンテス号に騎乗して地元の期待に応えた。

第9競技 成年女子 ダービー競技 (J:白石)

JO				
1	実平絵美子	ハードヤッカ	岡山	0 63"49
2	徳丸 亜里	フラッシュII	愛知	-4 52"86
3	佐々 典子	コスモブルー	山口	-4 56"90
4	山林真由美	チョモランマ	鳥取	-12 52"29
5	伊藤 佑	バックチャット	秋田	E
6	藤田あけみ	テキーラ	北海道	-1.25 130"99
7	桜井 佳子	ナチュラルゴ	岐阜	-3.75 140"30
8	安永 百子	リトルマニング	滋賀	-4 109"56

アップダウンのあるコースで18障害21飛越。23人馬がエントリーしたが、5人馬が失権。昨年は落馬が多かったが、今年はずか1人馬に止まった。飛込み、飛び上がり水濠にはオプションが設けられ、リスクを避けるようになっていたが、2人馬が水濠で3反抗失権となった。



◀唯一ジャンプオフでもノーミスで走行した実平絵美子選手とハードヤッカ号。

減点0でジャンプオフに進んだのは5人馬。優勝は岡山の実平絵美子選手とハードヤッカ号。元気のいい走行で、通り抜ける際に障害を壊したりしたが、減点にはつながらず、見事2走行満点。2位徳丸選手、3位佐々選手はそれぞれJOで1落下。

第10競技 少年 ダービー競技 (J:白石)

JO				
1	中村 陽平	アズマクィーン	長野	0 52"13
2	岡田 晴幸	バウンティ	富山	0 56"38
3	小林 慶生	鳳凰	山梨	-3 58"37
4	梁川 正重	アブサン	北海道	-4 52"70
5	鶴飼 英孝	リバティーレース	静岡	-7 71"73
6	亀田 紘卓	インディアンサマーII	奈良	-8 46"73
7	土坂 拓郎	アイデンティコ	宮城	-8 60"99
8	西崎 充郎	ハードヤッカ	岡山	E

成年女子のダービー競技が行われた同じ場所、同じ障害、速度、距離も同様で行われた。8人馬がジャンプオフに進み、2人馬が減点0。タイム4秒差で地元岡田選手を振り切った長野の中村陽平選手とアズマクィーン号が優勝を決めた。



▲中村陽平選手とアズマクィーン号

第11競技 成年女子 二段階障害飛越競技 (J: 新子)
(第2段階走行)

1	山口千恵子	カスターニャ	奈良	0	23"20
2	赤井 美也	ヴィノテーク	徳島	0	26"92
3	佐々 典子	コスモブルー	山口	0	29"85
4	竹田 宏美	エレガント	富山	0	29"93
5	塗木千穂子	シンエイファースト	鹿児島	0	30"36
6	加藤麻理子	ガバーン	静岡	-4	28"40
7	北垣喜美恵	大将	鳥取	-4	30"52
8	川瀬 絵美	ボンピースアイドル	新潟	-4	31"55

22人馬が出場したが3人馬が失権し、13人馬が第2段階に進んだ。第1段階7障害、第2段階は5障害6飛越のコースだが、難しい回転箇所があった。奈良県の山口千恵子選手のような常勝のベテランは、上手に安全策を

第12競技 少年 トップスコア競技 (J: 池本)

1	佐藤 賢希	ザ・ラスティー	長野	1590	64"57
2	鳥井 文司	イルミネーション	千葉	1560	66"70
3	楠 智恵	ツインカム	徳島	1330	67"79
4	藤田彩友子	シュガーシェイク	広島	1240	69"77
5	鈴木 智明	ジャネット	宮城	1120	68"52
6	龍田 太郎	トップギャル	長崎	1110	67"84
7	三上 志乃	ヴェールダンス	青森	1060	66"28
8	大塚 祐貴	イーワン	茨城	1060	—

16日はダービー競技が行われたため、本馬場での競技が中断。細長い会場を行ったり来たりしなければならないので、多少盛り上がり欠けた。60秒間にいくつの障害を飛ぶかで点数が出る。24人馬が出場し、ポイントは

第13競技 成年男子 S&H競技 (J: 新子)

1	小宮山 修	鈴蘭	山梨	65"65
2	大谷 直生	バラチナJ	奈良	69"66
3	塚本 親治	マディー	熊本	71"07
4	平尾 賢	スパークーI	大阪	71"78
5	深水 伸平	ザンジア	高知	72"12
6	菅野 仁	シルバメロディー	福島	72"77
7	鈴木 嘉憲	ジャネット	宮城	74"65
8	舟越 壮治	イーワン	茨城	75"19

26人馬、各県からベテランライダーがスタートした。昨年の覇者、福岡の中本譲選手はシリカ号を引退させてスターダムバイオ号で出場、減点0だが、スピードが出ず19位に止まった。昨年3位の佃日出彦選手とフェルディナンドZ号は1落下だが、やはりスピードが出せず16位。そんな中で、全日本中障害優勝カップルの山梨県小

第14競技 少年 S&H競技 (J: 新子)

1	庄司 幸寛	サリーナ	富山	63"31
2	佐藤 賢希	ザ・ラスティー	長野	65"46
3	増山大治郎	ナルシス	栃木	66"53
4	江川 聡子	イーワン	茨城	68"41

講じていつもながらの優勝を決めた。山口選手とカスターニャ号のコンビは平成8年以来、この競技に連続5回目の勝利。2位赤井美也選手とヴィノテーク号(徳島)、3位佐々典子選手とコスモブルー号(山口)。

ヨーロッパを転戦し、好成績を上げていた静岡の加藤麻理子選手とガバーン号は2走行目に1落下して6位に止まった。



▲女子2段階の常勝コンビの山口千恵子選手とカスターニャ号。5連覇を決めた。



▲佐藤賢希選手とザ・ラスティー号が果敢なチャレンジで優勝。

高いがリスクも大きいジョーカーに制限いっぱい2回チャレンジした選手が5人馬。長野の佐藤賢希選手とザ・ラスティー号が2位に30点差の1590点で優勝。2位は千葉の鳥井文司選手とイルミネーション号。3位徳島の楠智恵選手とツインカム号。

宮山修選手と鈴蘭号が安定した走行で実力を見せた。65.65秒というスピードで優勝。2位は奈良の大谷直生選手とバラチナJ号(北海道産、俊足のサラブレッド)。3位は熊本の塚本親治選手とマディー号。昨年の熊本国体では馬場馬術の選手として活躍した。日本のトップテンの選手が実力を競い、それなりに成果を上げた。



▲ベテランの実力を見せた山梨の小宮山修選手と鈴蘭号

少年では、長野の佐藤賢希選手、栃木の増山大治郎選手、奈良の本田恵士選手など実力派が出そろったが、本命の本田選手は回転で腰が浮く弱点が現れて、第2障害を落とし、第9障害で落馬という予期せぬ展開となった。佐藤選手はレベルは抜け出ているが、後半に手綱が伸び

- | | | | | |
|---|-------|----------|----|-------|
| 5 | 岡部 彰宏 | ジャスコテティ | 千葉 | 68"60 |
| 6 | 藤田彩友子 | シュガーシェイク | 広島 | 69"70 |
| 7 | 武藤 英和 | オービット | 熊本 | 71"04 |
| 8 | 鈴木 智明 | ジャネット | 宮城 | 72"43 |

る欠点が災いして、1落下。タイムは60.46とトップだったが、落下減点で2位に甘んじた。増山選手も61.53秒と速かったが同じく1落下で3位。慎重に走行した富山県の庄司幸寛選手とサリーナ号が落下減点0で優勝を決め、地元の声援に応えた。富山県の貴重な金メダリスト2人のうちの1人である。

第15競技 成年男子 総合馬術競技 (J:白石)

			調教	耐久	余力	総減点	
1	川俣 幹宏	アジュミュート	熊本	-52.2	-5.6	-5	-62.8
2	谷口 真一	リトルマニング	滋賀	-55.8	-7.6	-10	-73.4
3	佐藤 典生	ザ・ホップスコッチ	新潟	-64.8	-4.8	-5	-74.6
4	前島 仁	リーガルイメージ	山梨	-58.8	-7.6	-20	-86.4
5	大久保寿幸	コンバインランサム	長野	-57.8	-32.0	-5	-94.8
6	高橋 章人	グレンミスト	徳島	-59.6	-11.2	-25	-95.8
7	梶本 慎一	ルノール	長崎	-62.4	-20.4	-20	-102.8
8	久保田 学	アブサン	北海道	-68.6	-28.0	-10	-106.6

国体で総合馬術のクロスカントリーが行われるのは今回が最後となった。記念すべき総合馬術競技である。もっとも、兵庫県のように素晴らしいツースターのクロス・コースを備えているところが開催地の場合は例外だ。今大会では18人馬のエントリーがあり、実際には15人馬が

第16競技 成年男子 標準障害飛越競技 (J:大波多)

			JO
1	大谷 直生	パラチナJ	奈良 0 39"60
2	梶間 啓一	コンセプト	群馬 0 41"42
3	小宮山 修	鈴蘭	山梨 -4 32"63
4	菅野 仁	シルバーメロディー	福島 -4 40"00
5	佃 日出彦	ティニー	長野 -8 39"42
6	竹田 浩志	エレガント	富山 -8 42"30
7	増山 誠倫	ナルシス	栃木 E
8	塚本 親治	マディール	熊本 -4 68"81

23人馬が出場し、失権は5人馬。杉谷泰造選手、森本健史選手、加藤久典選手などのトップ選手がことごとくオリジナル・コースで過失を出して敗退し、減点0でジャンプオフに駒を進めたのは7人馬。そんな中で1位、2位を内国産馬が占めたことは、国体における内国産馬

第17競技 少年 標準障害飛越競技 (J:大波多)

			JO
1	中本 充洋	リファードフォーム	広島 0 35"50
2	稲垣佳代子	エレガント	富山 0 40"38
3	鈴木 央子	アルフィー	福島 0 52"90
4	遠藤 篤	セザンヌ	宮城 -4 40"30
5	細川 真里	ウィーンベン	静岡 -6 56"83
6	増山大治郎	ナルシス	栃木 -7 45"05
7	椎野 慎也	ギスボンII	神奈川 -8 41"20
8	森田 壮司	セフリ	福岡 -8 46"25



▶庄司幸寛選手とサリーナ号。慎重に走行して見事金メダル。地元の期待に応えた。



出場。10月17日から19日まで3日間にわたって行われた。初日の調教審査でアジュミュート号に騎乗し、2位につけた熊本の川俣幹宏選手がクロス-5.6。調教審査トップだった塩田選手が経路違反で失権して、2日目1位、そのまま逃げ切って優勝した。2位滋賀の谷口真一選手とリトルマニング号。

▲優勝候補の川俣幹宏選手とアジュミュート号がそのまま逃げ切って優勝。



の使用を推進している国内の生産者の励みになることだろう。優勝は大谷直生選手とパラチナJ号。後駆が上がらない馬をよくコンタクトをとってキープしたところはさすがベテランである。2位は梶間啓一選手とコンセプト号。宮城産のサラブ

▲大谷直生選手と内国産パラチナJ号 レッドでスピードに乗ったよい走行を見せた。注意力のある馬である。3位は小宮山修選手とベルギー産牝馬の鈴蘭号。



▶広島県の中本充洋選手とリファードフォーム号。経験の豊かさで勝った。

(10ページへ続く)

25人馬が出場して、6人馬が失権した。山梨の小林徳子選手と鈴蘭号のコンビ、大阪の藤野陽平選手とグレイスケリー号、長野の荒木久佳選手とティニー号、栃木の増山大治郎選手とナルシス号、熊本の榎田裕樹選手とマルコスルー号など強豪がそろっていたが、地元の稲垣佳代子選手とエレガント号がよく健闘した。全体にレベルが高く、減点0でジャンプオフに進出したのは8人馬を

数えた。そんな中で、海外遠征を含め経験の豊かさでは抜群の広島の中本充洋選手とリファードフォーム号が35.50秒というスピードで優勝。稲垣選手はジャンプオフもノーミス、タイムが40.38秒で2位になったが、よく頑張った。昨年、大瀧啓之選手が乗って優勝したアルフィー号は今年、鈴木央子選手が乗って3位。増山選手は勝ちをあせてJOで落下してしまった。

第18競技 成年女子 自由演技セントジョージ賞典 馬場馬術競技 (J:件)

1	三好由里子	ディミトリー	東京	技術 33.84 芸術 35.24	69.08%
2	桜井亜須歌	マノリート	静岡	技術 31.83 芸術 33.55	65.38%
3	中村 公子	ダンシングドリーム	秋田	技術 31.55 芸術 32.87	64.42%
4	牧野 裕子	アレクサンドラ	富山	技術 30.94 芸術 33.15	64.09%
5	岡部 亜貴	レギリオ	熊本	技術 29.67 芸術 30.92	60.59%
6	千葉いずみ	ファイネスト	宮城	技術 29.67 芸術 30.40	60.07%
7	山下 佳代	フルグロ	大阪	技術 29.39 芸術 30.61	60.00%
8	高木 由美	バルバドス	奈良	技術 28.78 芸術 30.89	59.67%

フリースタイル演技のセントジョージ賞典には13人馬がエントリー。上位のレベルはぐっと上がり、7位まで

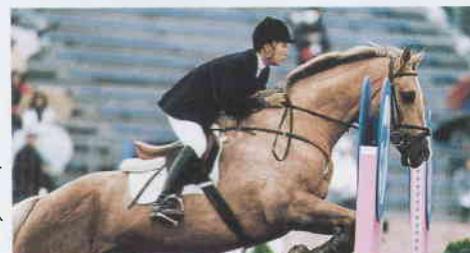


▲自由演技優勝の三好由里子選手とディミトリー号。が60%の台大に乗った。優勝は三好由里子とディミトリー号で69.08%まで行った。「2位の桜井亜須歌選手とマノリートのコンビの今後に期待したい。キュアは自分の得意な分野を生かせるので、いかに点を取るかを考えてやってください。地方は競技会の回数が少ないので、経験が足らなくなりそうですが、ビデオで研究などを勧めます」(山脇洋審判員)。3位は中村公子、地元牧野裕子選手とアレクサンドラ号は4位。

第19競技 成年女子 標準障害飛越競技 (J:大波多)

					JO
1	鈴木かおり	イルミネーション	千葉	0	32"96
2	山口千恵子	インディアンサマーII	奈良	0	35"91
3	伊藤 あき	山紅葉	山梨	0	36"39
4	成瀬 裕子	ファーマー	広島	0	36"61
5	中本 雅子	スターダムバイオ	福岡	0	36"71
6	川口 雅美	キンキー	静岡	0	37"19
7	栗崎二弥代	ユーホーキング	山口	0	41"45
8	安永 百子	セントサンライズ	滋賀	-4	33"95

今大会でもっとも白熱した良い接戦が繰り広げられたのがこの成年女子標準障害飛越。26人馬が出場し、9人馬が失権という事態になった。ジャンプオフに駒を進め



▶美しいパロミノのイルミネーション号が久々の快挙。鈴木かおり選手と。たのは10人馬。常勝山口千恵子選手とインディアンサマー号はパーフェクトに乗って、ベストタイムと思われたが千葉の鈴木かおり選手とイルミネーション号に敗れた。往年の名馬も最近は高齢になったが、運よく優勝を決めた。3位伊藤あきと山紅葉号も健闘した。

第20競技 成年男子 インターメディアイトI 馬場馬術競技 (J:件)

1	牧野 孝喜	夢	富山	63.44%
2	人見 尚樹	マノリート	静岡	63.23%
3	武智 一秀	バンカーII	広島	62.82%
4	瀬里町芳隆	バルバドス	奈良	62.46%
5	木曾 敏彦	ディミトリー	東京	61.54%
6	山下 敦夫	エリオットII	大阪	57.69%
7	藤原 健	ダンシングドリーム	秋田	56.31%
8	吉田 三郎	ターボ	徳島	56.10%



◀夢が正夢になった国産アングロ・アラブの夢号と富山県牧野孝喜選手。

この競技は国体の馬場馬術の中でいちばんレベルが高い。9人馬が出場して5人馬が60%以上を出した。接戦の末、地元の牧野孝喜選手と夢号が優勝。2位との差はわずか4点、0.21%である。「この課目は程度の高い演技が要求されるので、審判員も勉強してほしい。牧野選手が調教した国産馬の夢号はいつもはカリカリして背を張

る傾向があるが、今日は力を抜いてリラックスしていました。」(村上捷治富山県馬場馬術コーチ)。木曾選手の演技の途中で幼稚園の子供が見学に来てくれ、馬が物見をしてしまったが、国体という性格上、観客にはあまりやかましく言わない方がいいだろうが。2位人見尚樹選手とマノリート号、3位武智一秀選手とバンカーII号。

第21競技 少年 リレー競技 (J:新子)

1	鈴木 智明 遠藤 篤	アイディアル キング・オブ・スウィング	宮 城	78"57
2	小林 慶生 小林 徳子	鳳凰 鈴蘭	山 梨	79"49
3	遠藤 潤 鈴木 央子	ジャスティスIV アルフィー	福 島	83"07
4	板東 詩乃 楠 智恵	オペリジャン ツインカム	徳 島	83"35
5	小川 倫子 森田 和文	スパーキーI バカラ	大 阪	90"43
6	藤田彩友子 中本 充洋	シュガーシェイク リファードフォーム	広 島	92"48
7	加藤 恵 庄司 幸寛	ハイクオリティー サリーナ	富 山	99"15
8	岩倉 由佳 龍田 太郎	トップギャル ルノアール	長 崎	99"50

バトンの代わりにムチを持ち、2人1組で紅白のタスキをかけてリレーする。前半と後半でそれぞれが障害を飛越し、1落下は-5点に換算される。ナンバーワン・



▲優勝の宮城県チーム。左が鈴木智明選手とアイディアル号、右が遠藤篤選手とキング・オブ・スウィング号。

ライダークのペアである佐藤賢希選手と荒木久佳選手のコンビは佐藤選手の落馬で幕を閉じた。兄妹コンビの小林慶生、徳子選手の山梨組が優勢と見えたが、惜しくも1落下で2位。息がぴったり合った宮城の鈴木智明・遠藤篤選手のペアが落下なしで優勝を決めた(78.57秒)。福島遠藤潤、鈴木央子選手のペアはゆっくり慎重に回って、落下はしなかったが、83.07秒で3位。26県のエントリーがあったが、東京、奈良が欠場し、24県で戦った。

**第22競技 少年 アジア大会記念団体課目
馬場馬術競技 (J:伴)**

1	赤穂 久未	イ・デムデイトウ	東 京	64.89%
2	澤田麻衣子	ケリーゴールド	富 山	60.33%
3	亀田 紘卓	バルバドス	奈 良	59.22%
4	鈴木恵理香	ファイネスト	宮 城	58.67%
5	佐々木聡平	マノリート	静 岡	58.56%
6	荒木 薫	レギリオ	熊 本	57.22%
7	三浦裕芽子	ブリリアントB	秋 田	56.56%
8	森田 浩子	エリオットII	大 阪	54.22%

11人馬が出場した。第3課目よりレベルが高いこの課目を高校生がよく乗っている。馬場馬術は指導者の問題、



競技会の数の少なさなどが原因で、都市部と地方との格差が激しい種目でもある。「東京の赤穂久未選手とイ・デムデイトウ号は試合経験も豊富で、点数の取り方を心得ていて、一人だけポイントが抜け出ています」(山脇洋審判員)。地元富山の澤田麻衣子選手はケリーゴールド号で60%以上をマークし、2位に付けた。

◀赤穂久未選手とイ・デムデイトウ号

第23競技 成年男子 五段階障害飛越競技 (J:田口)

1	荻谷 幸生	オリンピック	岡 山	(183cm) -4
2	島 和弘	サン・トロベッツ	北 海 道	-12
3	小澤 高夫	ハイクオリティー	富 山	(180cm) -4
4	藤熊 昇	パラチナJ	奈 良	(170cm) -3
5	久木山元和	シンエイファースト	鹿 児 島	-8
5	山岸 達彦	ワーラキャッスル	東 京	-8
5	木村 康嗣	ロイヤル・ハイネス	福 岡	-8
5	松田 忠己	シルバーエルム	宮 崎	-8

国体を盛り上げる最終競技が五段階飛越。最近170cm止まりが続いたが、久々にバーの高さが180cmを超した。150cmからスタートし、25人馬が挑戦したが、170cmを岡山

の荻谷幸生、北海道の島和弘、富山の小澤高夫の3選手が完飛。バーが180cmに上がり、地元の小澤選手はここまでとなった。183cmでは2人馬ともクリアできなかったが、1落下の荻谷とオリンピック号が優勝。ウィニングランで歓声に応えた。



▶久々に180cmをクリアした荻谷幸生選手とオリンピック号。

2000年とやま国体を終わって…

■富山国体総評

日馬連国体委員長／平山一哉



平山一哉氏

第55回とやま国体は立山連峰を望む立山町の常願寺川河川敷特設会場において、盛大に開催されました。開催にあたり、富山県、立山町、また、富山馬術連盟の皆様にご尽力いただきましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

さて、今世紀最後の国体として開催された今年のとやま国体は河川敷という縦に長い会場となり、まずもって選手をはじめ、関係者の皆様には移動面で大変ご苦労をおかけしたことにしておわび申し上げます。

今回から厩舎地区への出入りをチェックし、入場を制限しました。完璧とは言えませんが、それなりに皆さんに意識を持っていただいたように思います。厩舎で改善の余地があるなど感じたのは、仮厩舎の通路の幅です。最近ではピクニック用のテーブルを持参し、憩いの場を作っているチームが多く見受けられます。このため、馬の通行を妨げ、事故にもつながりかねないケースも多くあります。今後、国体委員会でも検討し、安全確保の方向を見いだしたいと思います。今回も人馬ともに大きな事故はなく、無事に終了しましたことを、皆様方とともに喜びたいと思います。

富山国体審判長／中村薫



中村薫氏

今回の富山国体は既設の常願寺川公園の中に整備された特設馬術競技場で、既設の施設を利用して計画されたために、厩舎区域、練習区域、競技区域が離れていたため、競技関係者、選手ともども連絡、移動等に難渋していたが、長年にわたって整備された芝生、植栽等により、自然的な風光の中で競技され、観客、選手、役員の一休感が醸成され、従来の国体に見られないよい雰囲気競技できたものと思われま。

総合成績については、開催地の富山県は1位が2種目であったが、2位に7種目入賞し、101点を挙げ、総合優勝を獲得した。また、総合2位の奈良県は1位が3種目、2位が3種目と、いつときは開催県をしのぐ勢いで点数を挙げていたが、広範囲の種目に入賞し、89点という脅威的な点数を挙げました。

静岡県は特に女子総合成績1位という得点で、男女合計66点を獲得し、見事総合成績3位に入賞した。それぞれの選手団により、馬場、障害、総合馬術に強弱の特徴があるものの、各種別、各種目にわたって入賞を重ねている県の上位入賞が目立ったように感じました。



富山国体技術代表／石黒建吉

施設が分散しているなど、不自由はあったが、カートを出すなどして、努力・工夫しておられたので、さほど不便は感じませんでした。地方色が出るのは国体の特殊性でいいことだと思います。ダービー・コースも初めは滑りましたが、すぐに直すなど対応が早かったので問題はありません。

競技を見るに、全体的に人馬の資質は向上しています。オリンピック・イヤーで優秀な選手の参加が少なかったということはあるかもしれませんが、それをカバーするだけの実力のレベルアップが見られました。コースは難しかったにもかかわらず、少年障害飛越でジャンプオフが8人馬も出たことがそれを物語っています。地方と中央との格差が減ったこと、優秀な指導者が地方にも増えていることを感じました。

日馬連広報委員長／白井民平

馬術はマイナーなスポーツと言われてきたが、国体に限って観客が多く、地元の応援団で盛り上がったものである。ところが、今回は地元の観客数も減っているような気がした。他のスポーツ、例えば柔道やバスケットなどは連盟が人を集める努力をしていると聞いている。有名選手は海外に行き、国内競技の規模が多少小さくなってきている感があるが、実際にはオリンピック選手も出場していた。もっと盛り上げる方法はないだろうか。

五輪直後のため、テレビで水準の高いスポーツを観戦した後なので、国民の国体への関心そのものに影響があったかもしれない。最近の馬術の国内競技会の全体の成績が低調なのと、高齢馬や数少ない内国産スポーツ用馬の活躍の理由のひとつに、バブルがはじけ、良い外国産レディーメードを購入できなくなったことがある。選手が試合の課題にうまく対応できなくなってきているのだろうか。きちんと内国産馬のスポーツホースを生産する努力をしなかったツケが回ってきたような気もする。

また、来年から総合馬術（クロス）がなくなるので、交通便利な都市近辺に会場を移していくことも可能になったので、再び観客の動員に期待したいと思います。

第55回国民体育大会【馬術競技】 総合成績一覽

区分 都道府県名	成年男子 (小計)	成年女子 (小計)	少年 (小計)	男女総合成績		女子総合成績	
				合計点 (競技得点+参加得点10点)	順位	合計点 (競技得点+参加得点10点)	順位
北海道	8	3	7	28	17	13	19
青森県			2	12	35	10	24
岩手県	3			13	34	10	24
宮城県	6	5	35	56	5	15	16
秋田県	4	14	2	30	16	24	6
山形県				10	37	10	24
福島県	9	1	12	32	14	11	22
茨城県	3		6	19	25	10	24
栃木県	2		9	21	22	10	24
群馬県	13			23	20	10	24
埼玉県				10	37	10	24
千葉県		8	17	35	12	18	12
東京都	14.5	16	14	54.5	6	26	4
神奈川県	4		7	21	22	10	24
山梨県	19	11	20	60	4	21	8
新潟県	6	1		17	28	11	22
長野県	8		32	50	7	10	24
富山県	31	17	43	101	1	27	3
石川県				10	37	10	24
福井県				10	37	10	24
静岡県	13	27	16	66	3	37	1
愛知県	8	7		25	18	17	14
三重県			4	14	32	10	24
岐阜県		2	8	20	24	12	20
滋賀県	7	2	4	23	20	12	20
京都府	5			15	31	10	24
大阪府	11	11	7	39	11	21	8
兵庫県				10	37	10	24
奈良県	43	19	17	89	2	29	2
和歌山県				10	37	10	24
鳥取県	2	7		19	25	17	14
島根県				10	37	10	24
岡山県	16	8	1	35	12	18	12
広島県	9	12	19	50	7	22	7
山口県	5	16		31	15	26	4
香川県				10	37	10	24
徳島県	6	10	16	42	10	20	10
愛媛県			1	11	36	10	24
高知県	4			14	32	10	24
福岡県	2.5	10	2	24.5	19	20	10
佐賀県				10	37	10	24
長崎県	2		5	17	28	10	24
熊本県	19	5	13	47	9	15	16
大分県				10	37	10	24
宮崎県	2.5		5	17.5	27	10	24
鹿児島県	2.5	4		16.5	30	14	18
沖縄県				0		0	